

# 通常の学級での学びに向けて

## 「わかりやすい授業」とは？

答えがすぐに「分かる」のではない。教師が答えをすぐに教えるのではない。  
教師がすべてやってあげるのではない。

例えば・・

<内 容>

・いま何について考えるか、何をすることが「分かる」

<見通し>

・授業や単元の見通しを持って自分は今日の段階かが「分かる」

<ねらい>

・何のための学習なのかが「分かる」

<方 法>

・考えを深めるために必要な方法や情報が「分かって」選択できる等

全員が自分で考えるための「スタートライン」に立つ。

全体指導の工夫と個別の配慮等により児童生徒全員が考えるスタートラインに立てるようにする。

そのためには教師の自由な発想(リフレーミング)が必要  
例えば・・・  
焦点化・視覚化・言語化、動作化等の方法を参考に

〇〇できない子と捉えるよりも  
〇〇できるにはどうするか  
を考える。

自分の考えを深めることを目指す。

## 通常の授業改善

## 授業のユニバーサルデザインの視点での授業改善

○障害のある児童生徒を含め多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提・・・  
(R5年3月文科省通知)

○子どもの実態把握(想定されるつまずきを捉える)  
「ふくしまの授業スタンダード」より

発達障がい等、支援が必要な児童生徒を含むことを前提とし、児童生徒全員を対象とする。

児童生徒のつまずきを想定する。  
なぜ？行動の理由や背景を考える。

A君への支援はBさんへも全体へも有効かも

主体的・対話的・深い学び  
(授業改善の視点)

まずは全体指導の工夫からスタート

主体的・対話的・深い学び  
(授業改善の視点)

こうしてほしい行動を具体的にいくつか想定する。

例)焦点化・視覚化・言語化・動作化・共有化など

より明確、具体的

各教科等の見方・考え方を働かせる

ねらいは同じ

各教科等の資質・能力の育成、生きる力を育む